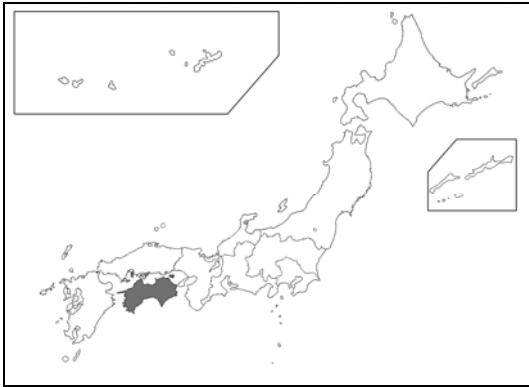


(9) 四 国



四国地域では、景気は緩やかに回復しつつある。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

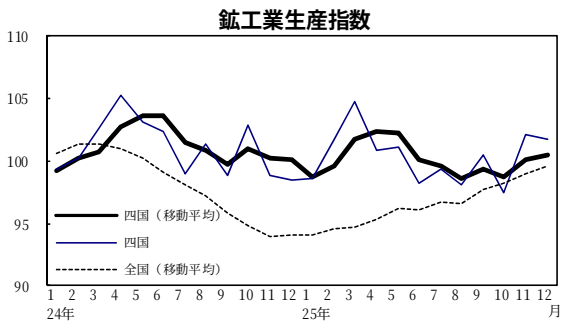
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 25 年 11 月）	今回（平成 26 年 2 月）	
景況判断	持ち直し	緩やかに回復しつつある	↑
鉱工業生産	緩やかに持ち直し	持ち直し	↑
個人消費	持ち直しの動き	持ち直し	↑
雇用情勢	改善	着実に改善	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

10～12 月期には、医薬品はワクチンの生産等で増加したこと等から増加した。電気機械は、海外需要が好調なことからスマートフォン用の蓄電池や光電変換素子が増加したことに加え、建設需要が好調で開閉制御装置が増加したこと等から増加した。食料品は、冷凍調理食品、その他の菓子等で増加したこと等から増加した。はん用・生産用機械は、中国向けの需要の減速感から、化学繊維機械等で減少したこと等から減少した。非鉄金属は、工場の設備トラブルや定期修理により電気金、電気銅等で減少したこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
化学	22.9	▲0.4	5.1	▲6.5	26.8	▲6.0
電気機械	15.8	3.4	5.9	▲1.4	4.9	5.6
食料品	10.5	0.0	4.4	3.0	2.0	▲2.0
はん用・生産用機械	10.0	▲10.4	▲5.4	▲9.5	▲12.3	0.6
非鉄金属	8.0	4.8	▲4.1	▲0.1	▲9.0	16.2
鉱工業	100.0	▲0.7	1.1	▲3.0	4.7	▲0.4

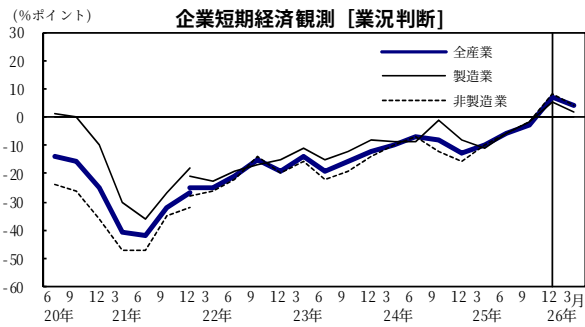
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10～12 月期、12 月は速報値。

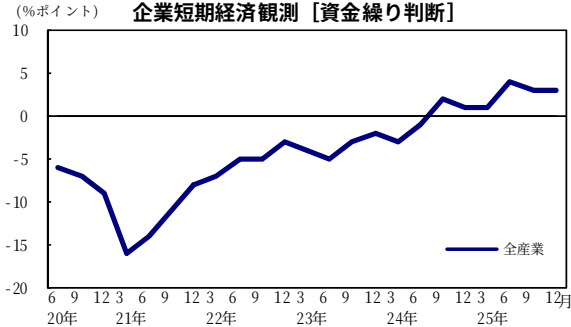
(備考) 1. 22 年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方 3 か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

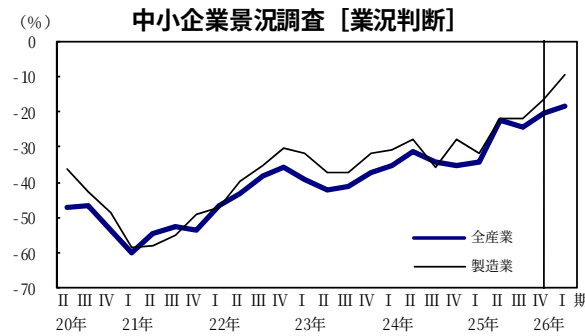
①企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。26年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

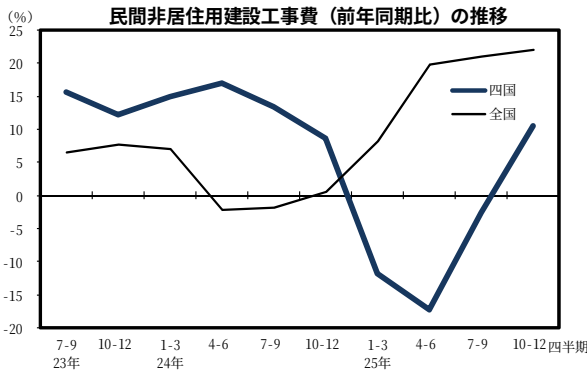


(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。26年I期は見通し。

②景気ウォッチャー調査(1月) [企業動向関連(現状)]

「工場設備は、制御盤やモーターの改修などが良い。太陽光発電は50キロ前後の低圧タイプが非常に好調で、問い合わせも多い(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	24年度実績	25年度見通
全産業	▲19.8	14.3 (1.6)
製造業	▲30.1	18.4 (▲2.9)
非製造業	▲4.9	9.9 (7.3)

(備考) () は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

①地域別消費総合指数（RDEI（消費））

10月は前月比0.7%増、11月は同0.1%減、12月は同0.1%減となった。

②大型小売店販売額

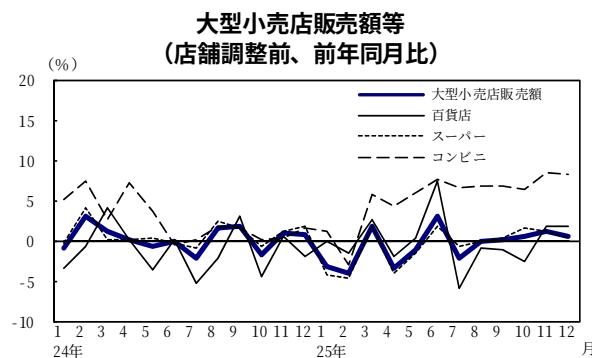
10月は、前年に比べ気温が高めに推移したことから秋冬物衣料が低調であったこと等から、前年を下回った。11月は、前年に比べ月前半の気温が高めに推移したことから冬物衣料の動きが鈍かったものの、前年に比べ土曜日が1日多かったことに加え、「一部店舗のリニューアル効果等から前年を上回った。12月は、宝石などの高額商品が好調であったこと等から前年を上回った。

スーパーは、野菜の相場高の影響や精肉などが好調だったこと等から前年を上回った。

③景気ウォッチャー調査（1月）【家計動向関連（現状）】

四国地域の家計動向関連DIは、50.0となり前月より4.4ポイント低下した。

「天候不順の影響もあると思うが、年始商戦終了後は来客数が減少している（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

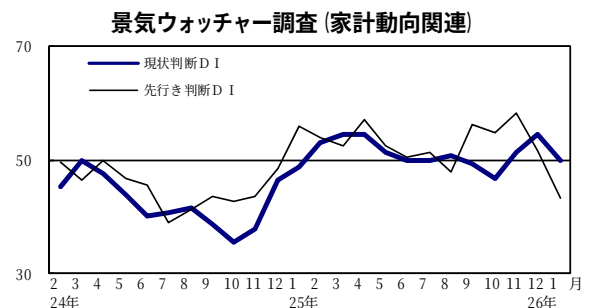
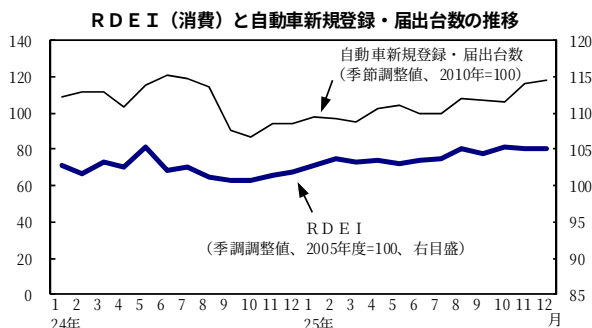


	25年10-12月	25年10月	11月	12月
RDEI（消費*1）	0.7	0.7	▲0.1	▲0.1
大型小売店(*2)	0.8	0.6	1.2	0.6
百貨店(*2)	0.6	▲2.5	1.8	1.9
スーパー(*2)	1.0	1.6	1.1	0.3
コンビニ(*2)	7.7	6.3	8.5	8.2
乗用車(*3)	23.1	21.7	21.6	26.1
(季節調整値)(*3)	8.1	▲1.1	9.2	2.0

(備考) 1. 季節調整済前月(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

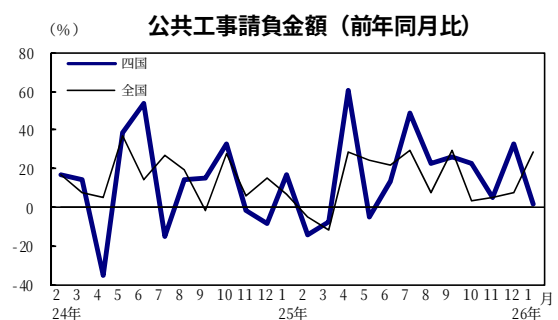
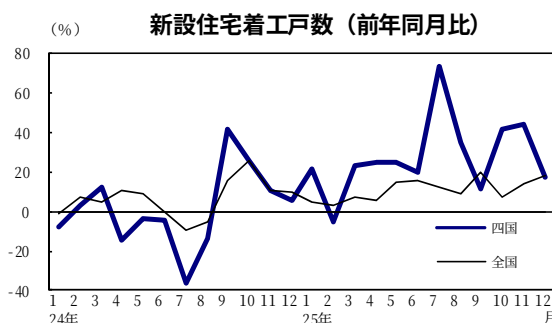
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計でみると前年度を上回っている。

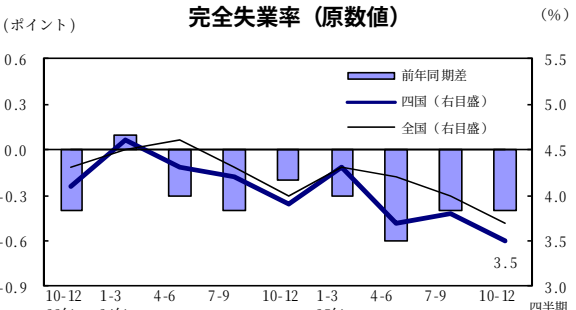
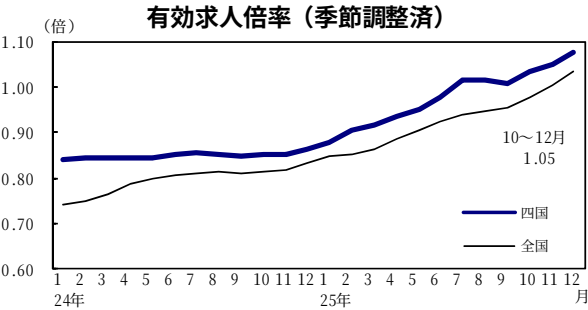


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

①有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



②景気ウォッチャー調査（1月）【雇用関連（現状）】

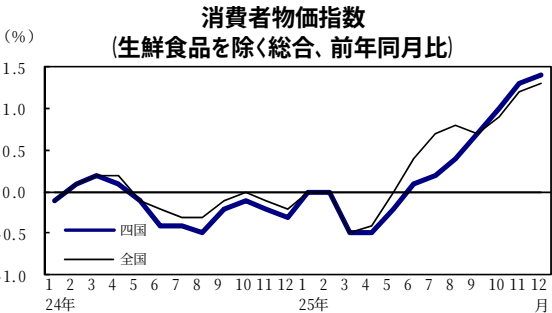
「製造業や建設業で受注増が顕著となってきており、消費税増税後も堅調に業績が上向くとの声がよく聞かれる。また、派遣料金の単価改定についても前向きな姿勢がうかがえる（人材派遣会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、負債件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	26年1月
倒産件数 (前年比)	60 ▲16.7	53 ▲15.9	44 ▲36.2	35 ▲49.3	15 ▲6.3
負債総額 (前年比)	102 ▲27.7	123 ▲11.4	70 ▲64.2	96 ▲38.2	82 252.5



○ 景気ウォッチャー調査（1月）【合計（特徴的な判断理由）】

<現状>

- ・小売店からの発注が増えてきている（繊維工業）。

<先行き>

- ・消費税増税前の駆け込み需要から売上は上昇すると推定する。ただし、景気が上昇しての売上増ではない。前回の消費税増税時には年間で1%程度の売上減であった（スーパー）。

